

災害時の被害想定をレベルアップせよ

笠原則孝



町長

被害想定をレベルアップし、防災意識の高揚を図りたい

質問

近年、地震・水害・強風と自然災害が日本列島に多く発生している。現在の被害想定レベルを上げなければならないと思うが。

答弁

町長 全国的には大地震の噴火、豪雨による土砂災害があり、近隣では赤堀でダウンバースト現象の発生により農業施設や車両が吹き飛ばされる等、被害が起きている。被害想定レベルアップを行い、防災訓練等で防災意識の高揚を図っていく。

町内小中学校のエアコン設置工事の現状は

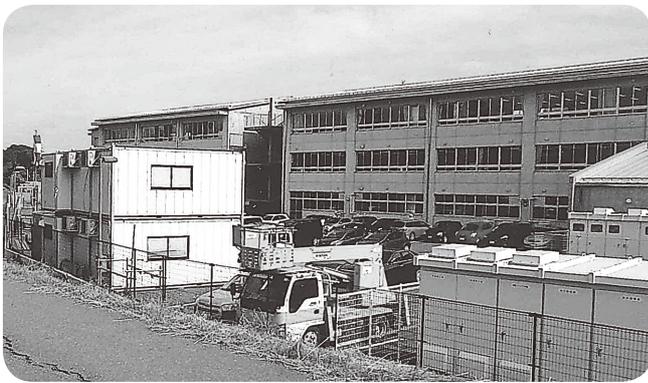
質問

総工費4億4280万円という建設関係以外では大規模な工事であり、町内にも同様の工事ができる業者がいる。特定の業者に偏る恐れがないように、町内業者の育成と雇用の場の確保という観点からワークシェアリングで行う考えを支持したと思うが、現状はどうなっ

答弁

町長 今回の工事は、中央小学校以外の6校分全てを一括発注とした。下請業者の選定には町から指示命令が原則としてできず、元請業者の選定により工事が進められた。地元業者の活用はお願いしたが、地元業者からの参加の意思表示はなかったと聞いている。

ているのか。



集中的な工事で7月にはエアコンが使用可能に

選挙公約の速やかな実施を

質問

町長が選挙戦で掲げた公約が全然守られていない。町民は公約を信頼して投票したので、空手形にならないよう速やかに実施してほしい。

答弁

町長 公約は「町の人口を増やし町の活性化を図ります」「財政の健全化と玉村町発展の基盤を作ります」の2つであり、他は重点政策として提案している。町長に就任した2月には、既に平成28年度予算案ができており、新規事業を計画することは不可能だった。さらに経常収支比率96・8%と財政の硬直化が顕著な状態で、公共建物の老朽化に伴う修繕費等も厳しい状況である。公約の実現については、時間的にご配慮をいただきたい。

※1 「経常収支比率とは」財政状況を把握するための指標のひとつであり、比率が高いほど臨時的な経費に使用できる一般財源が少なく、財政構造の弾力性を失っていることを示す。